［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年10月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4151080043
法人名	医療法人 源勇会
事業所名	グループホーム かえで
所在地	佐賀市川副町大字早津江263番地 （電 話）0952-34-7311

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年 9月 14日	評価確定日	平成 19年 10月 12日

【情報提供票より】（平成 19年8月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	12 人	常勤 12 人，非常勤 0 人，常勤換算 12 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	階建ての 1 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	36,000/39,000 円		その他の経費（月額）	9,000 円
敷 金	有（ 円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

（4）利用者の概要（ 8月31日現在）

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3	名	要介護2	6	名
要介護3	3	名	要介護4	3	名
要介護5	0	名	要支援2	3	名
年齢 平均	87 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	枝國医院（内科）・たつの歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が母体で、病院と同一の敷地内にあり、緊急の医療体制が整い、入居者、家族ともに安心感を持たれて、生活されている。また、通りからは一歩中に入った静かな環境であった。新築の建物は明るい陽が差し込み、落ち着いた雰囲気である。西側の窓には紫外線カットのガラスを使用し、日差し対策も施されている。入居者は事業所内でそれぞれ役割を持って生活されており、職員と一緒になって有意義な生活を送られていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の評価をふまえて職員で取り組まれているが、なかなか進んでいない状況であった。そのような状況の中でも、運営推進会議については定期的に開催され、少しずつではあるが、地域との交流について取り組まれていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価を行うことでサービスに対する意識向上のきっかけとされ、向上心を持って改善への取り組みへの意気込みが見られた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） グループホームの存在や、役割等について地域の方々に理解してもらえるきっかけとなっていた。法人としての開催となっていて、法人本部の職員との意見交換も出来ていた。今後は色々な方に参加してもらいながら、意見交換が活発になされる事が期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 玄関には意見箱が設置されたり、グループホーム以外の窓口にも意見や要望が表すことが出来るように家族へ伝えられていた。家族へは面会時に会話の中から要望等をうかがいながら運営に反映されていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の行事に入居者や家族が参加されたり、ホームでの行事に地域の方が参加されたり、交流が図られていた。また、婦人会の琴の演奏会なども開催されていた。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別にホームで作り上げた理念があり、7項目にわけられ、それを曜日別に重点項目を定めて実行するようになっていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室の見やすい所に掲げられ、毎朝ミーティング時に復唱されていた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や婦人会の琴の発表会への参加がなされていた。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は職員が目を通し、サービスに対する意識向上のきっかけとなっていた。これまでの外部評価を踏まえてサービスの改善に取り組まれていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催はなされていたが、出席者が限られたメンバーに限定されてきていた。	○	地域の幅広い意見がくみ取れるよう、様々な分野からの出席を促す取り組みが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の場でしか連携はとれていなかった。	○	積極的な連携を取っていくよう今後の取り組みが期待される。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭管理に対する報告がなされており、また3カ月ごとに個々の入居者のご様子をお知らせする手紙が発送されていた。しかし、ホームの様子や職員の情報が伝えられる手段が整っていなかった。	○	入居者の様子だけではなく、ホームの様子や職員の情報なども家族は知りたい情報であるため、ホームだより等で家族にお知らせするなど、さらなる取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設置されていた。また、家族とはコミュニケーションをとり、その中で意見をくみ取るよう努められていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で異動があった際は、異動となった職員がホームを訪れたり、場合によっては職員にホームに来てもらうよう呼び掛けたりしてフォローが行われていた。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、職員の希望により積極的に参加が促されていた。また、外部の研修会には希望を聞いたりしながら、勤務調整をしたりして参加しやすい配慮がなされていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町独自のネットワークに参加し、近隣のグループホームや福祉施設等との情報交換が行われていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から、性格や入居までの経過など聞き取りを行い、また入居前にホームに足を運んでいただくようにして、ホームになじめるよう工夫がなされていた。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの日常の多くを職員と入居者が共に過ごされていた。若いころの話に聞き入ったりすることもあり、支えあう関係が築かれていた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情、しぐさなどからコミュニケーションをとり、意思・意向の把握に努められていた。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	会議の場には本人も参加されて、ホーム内で本人・家族の意向を基に検討が行われ、介護計画が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3カ月ごとの見直しが行われ、これまでの意向、これからの意向を確認し、変化に沿った介護計画が作成されていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の介護老人保健施設、居宅介護支援センター、デイケア、デイサービス、医院や、また外部の歯科・眼科・皮膚科などとも連携をとり、職員が同行したりして柔軟な対応がとられていた。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医院をはじめ、かかりつけ医との関係が築かれながら医療の支援が行われていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・かかりつけ医らと方針を繰り返し話しあいながらケアを行っているが、ホームとして統一された方針は示されていなかった。	○	ホームとしての方針を明文化し、スタッフの意識を統一してケアに当たられることが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレのドアは介助する時もきちんと閉めるなど、日常のケアの中でプライバシーを損なわないよう注意・配慮がなされていた。個人の記録等は、スタッフルームにて保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事などはその都度声掛けを行い、本人の意向をうかがいながら、参加については本人の気持ちを優先されていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は入居者と一緒に行われていた。夕食では夜勤者が一緒に食事を摂っていたが、昼食時は同じテーブルにてお茶を飲みながらの介助する体制となっていた。	○	入居者と職員が一緒に食事をしながら、食事の時間を共に楽しめる環境づくりが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望については入居者に確認されていた。温度・湯量などにも入居者の好みに合うよう配慮がなされていた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者に合わせて食事の準備・後片づけなど、役割が持てるような支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じて、敷地内の公園への散歩や買い物等、外出の支援が行われていた。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行われておらず、開放的な生活環境が提供されていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回、法人内において、地元の消防署の協力のもとに入居者・職員参加のもと避難訓練を行われていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みのものを取り入れたり、医師に相談したり、また食事内容も咀嚼の状態に合わせた配慮がなされていた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を大きくとってあり、建物全体に明るい日差しが差し込んでいた。雑音もなく、静かな環境であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものを持ち込まれたり、写真を飾られたり、思い思いの居室作りがなされていた。		